

平成21年 4月号

各地商工会議所で使用されている商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染み易いロゴマークになっています。

ロゴは各地商工会議所青年部の英語 (Young Entrepreneurs Group) の頭文字をとったものですが、同時に各地商工会議所青年部の持つコンセプト、若さ・情熱・広い視野をもった経営者 (Youth Energy Generalist) を表現しています。



発行：日本商工会議所青年部 (日本YEG)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-2-2
日本商工会議所 中小企業振興部内
TEL 03-3283-7847 <http://yeg.jp/>

編集：広報委員会

委員長：藤原 浩晃

副委員長：河野 渡/新井政秀

理事：大江 匠/青木聡明/田中 修/有座宏文
野崎 良/神部吉昭専門委員：五十嵐 亮/吉田 修/小林弘明
井野口 豊/川崎亮一/水野久美子
延原正浩/梶原康彦/宮内俊治

「One Team!」

力強い日本の創造 原点回帰、そして新たなる進化



日本商工会議所青年部 (日本YEG)
平成21年度 会長
山内 毅
(千葉YEG)

そのような厳しい状況の中で、私たち日本YEGは何をすべきでしょうか？ YEGの原点は商工業発展に寄与する事であり、日本経済、そしてその中核になる私たち中小

企業が、将来に向けて大きな岐路に立たされている今こそ、全国402単会の連合会組織である日本YEGが、その持てる力のすべてを発揮し、全国のYEG会員企業が地域・ひいては日本経済の牽引役となれるよう積極的に活動すべき時と考えます。

そして我々の次世代に健全でより良い商工業環境を残す事も重要な責務です。 YEGとは Young Entrepreneurs Group の略であります。 Entrepreneursとは、一般的には起業家という意味ですが、閉じてしまった扉を開ける・使命を強い心をもつてやり遂げる、という意味もあります。今まさに、YEGの出番なのです。

今年度、会長職を務めさせていただけにあたり、スローガンを「One Team!」力強い日本の創造、原点回帰、そして新たなる進化とさせていただきます。会員である全国402単会とそのメンバーが日本YEGを通じて集い、議論し、考え、そして共有したものが、日本の中小企業が力強く発展し、日本経済を再び好転させるための原点となる事を確信しています。全てのYEGが一丸となって新たなる歩みを進めて行くのではありませんか！

さて、今年度の運営に関してありますが、あらためて連合会としての

役割を見つめ直し、そのメリットを最大限活かしながら、会員である402単会がその地域において、より有意義な活動ができるよう下記の3つの重点事項をもとに運営して参ります。

(1) YEG会員企業発展の支援
全国規模の連合会としての特性を最大限活かし、全国各地のYEGから集まる最新の地域情報、ビジネス情報の集約と発信を行います。
また、各種研修事業を実施してYEGメンバーの資質向上を図り、このことで会員である各YEG・そこに所属するYEGメンバーの発展を支援します。

(2) 提言活動
平成19年度、日本YEG規約が改正され、事業目的に「本会としての意見を日本商工会議所会頭に具申・提言」という一文が加わりました。
全国規模の連合会である事のメリットを最大限活かし、各地域のYEGから集まる意見や要望を集約・調整・共有し、連合会としての提言活動を行います。

(3) 年間事業サイクル変更の円滑な実施
設立27年目を迎える平成21年度は、日本YEGの年間事業サ

イクルが大きく変更になる年度です。これは全国大会や全国会長研修会等の重要事業の意義や内容を会員の皆様に、より有意義なものになるよう再検討した結果として行われるものです。

この変更を出来る限り円滑に進めて参ります。
11月に奈良で開催する全国会長研修会では、全国402単会の会長及び次年度会長を主な対象として、意見・情報交換の場やリーダー同士の交流の場を提供いたします。

また翌年3月に愛媛県・松山で開催する全国大会では、全国のYEGメンバー同士広く交流と連携を深めていただきます。

今年度、日本YEGは全国から146名のメンバーが出向し、運営して参ります。皆、熱い気持ちを持った素晴らしい人々です。そんな優秀な人材を輩出していただいた全国9ブロック402単会の皆様に感謝すると共に日本YEGがより良く皆様のお役に立てるよう邁進して参ります。

「One Team!」力強い日本の創造 原点回帰、そして新たなる進化
重ねまして、よろしくお願ひ申し上げます。

「One Team!」力強い日本の創造 原点回帰、そして新たなる進化
重ねまして、よろしくお願ひ申し上げます。



日本商工会議所青年部(日本Y E G)
平成21年度 直前会長(平成20年度 会長)
工藤 哲弘
(大分Y E G)

「Let's TRY! YEGスクラムで、ビジネスフィールドを突っ走れ!」のスローガンを掲げ、昨年4月にキックオフした平成20年度「YEGスクラムの強化」ビジネスフィールドの拡大「真の経営者・リーダーづくり」の3つのテーマで事業を展開してきました。また、全国の連合会組織として、「1人の声は小さくても、1万人の声は国をも動かすのだ!」という思いで、全国各地の声を聞き、精査・取纏めし日本商工会議所を通じて関係省庁等へ建議できるように活動をしてまいりました。

地域色あふれたブロック大会。雄大なびわ湖を眼前に商人道を学び交流を深めた全国大会びわ湖大津大会。熱い議論をかわし未来ビジョンを思い描いた全国会長研修会浜松会議。参加者との対話を大切にした翔生塾・ビジネスプランコンテストなど盛り沢山の研修事業。YEGスクラムを強化するため改良に工夫を凝らした事業「データベースリニューアル」やYEG大賞。ビジネスを支援する「縁満開」ビジネスサイトリニューアルや全国ビジネス交流会。その他にも対談、CACCI、風会議、提言活動等枚挙に暇がありません。そして、これらの事業のたびにそれに関わるYEGメンバーの情熱とひたむきな姿をいつも目の当たりにし、また地域に愛情をそそぎ地域の未来に向かって真剣に真面目に取り組むYEGメンバーと数多く触れさせて頂きました。

このことを通じ、自信をもって言えます。このような厳しい時代だからこそ、YEGが真のリーダーとして立ち上がる時です。YEGスピリッツを発揮する時です。地域にひいては日本に元気と活力を与えるのはわれわれYEGです。そしてそのためのサポートと時には牽引していくのがわれわれ日本YEGです。

全国の連合会組織の会長として、常に立ち位置を各地YEGのサポーター・お世話係りに置き、利用価値の高い日本YEGを目指し運営してきたつもりでございます。皆さまの活動に少しでもお役に立てたのなら、この上なく幸せです。

平成20年度が終わり、山内会長率いる素晴らしいスタッフが勢揃いして平成21年度がはじまりました。《YEGスクラム》から《ONE TEAM》へ、一丸となって全国のYEGとともに邁進していただくと確信しています。引き続き日本YEGに倍旧のご声援をいただきますことを切にお願いいたします。

結びに、まっしぐらに走ることでできない私に最後までおつきあい頂き、いつも暖かく支えて下さいました全国各地のYEGメンバーの皆さま、地元でバックアップしてくれた大分YEG・大分県連の皆さま、そして獅子奮迅の素晴らしい活躍してくれた平成20年度出向の仲間たち、本当に一年間ありがとうございました。沢山のかけがえのないご縁に感謝!!



正副会長集合写真



ブロック代表理事集合写真



委員長集合写真



会議風景①



会議風景②



会議風景③



日本商工会議所青年部(日本Y E G)
平成21年度 副会長
西居 基晴
(大津Y E G)

「One Team」のムードメーカーとして
頑張っていこうと考えております。

た。その大会において、全国のY E Gメンバーへ滋賀県連メンバーから「おもてなしの心」を発信させていただきました。そして今年度は日本Y E Gにおいて、山内会長を支える筆頭副会長として、会長と想いを共有し、その思いを実現するとともに、「One Team」のムードメーカーとして頑張っていこうと考えております。

本年は、全国大会と会長研修会の開催時期を入れ替える、サイクル変更の初年度となります。一言でサイクル変更と言いますが、変更にともなつて発生する要綱の改定や慣習の変更などなど山積みの課題があり、想定外の課題も含めるとかなりのスタミナが必要とされる年度となると考えられます。そして、11月に開催する「全国会長研修会」において開催地の奈良Y E Gと、日本Y E Gの研修委員会と企画委員会がコラボで企画・運営するという初めての試みも行います。この試みに関し、奈良Y E Gと日本Y E Gとの調整役という、非常に大切な役割を任せられた研修委員会担当副会長としても、しっかりと務めざることを責務と考えております。

平成21年度副会長を務めさせていただきます。近畿ブロック・滋賀県連・大津Y E Gの西居基晴でございます。まずもって本年1年間よろしくお願ひします。

私は昨年、日本商工会議所青年部第28回全国大会「びわ湖大津大会」の大会会長を務めさせていただきました。

私自身、平成10年度の初出向から数えて、本年で7度目となる日本Y E Gへの出向経験を生かしながら、先輩築きあげられた歴史に感謝し、お世話になった全国のY E Gメンバーに感謝し、守るものと変えなければならぬものを見極め、21年度をすばらしい年度にするために努力しますのでよろしくお願ひします。



日本商工会議所青年部(日本Y E G)
平成21年度 副会長
鳥澤 加津志
(上尾Y E G)

大きく変わると書いて『大変(たいへん)』と読む訳ですが、どうぞ一年間よろしくお願ひします。

本年度、東地区(北海道・東北・関東ブロック)と企画委員会を担当させていただきます。埼玉県連・上尾Y E Gより出向いたします鳥澤加津志です。平成16、17、18年度には、委員長・専務理事として皆様には大変お世話になりました。最後にもう一年お付き合ひの程よろしくお願ひ申し上げます。

今年度から日本Y E Gは年間サイクルが変わります。このサイクル変更の一番の目的は、単に全国大会と全国会長研修会の開催を入れ替えると言う事ではありません。真の目的は各地域が地域の発展の為に、しっかりと準備の下で年度を迎える事にあります。4年前にサイクル変更が決定した訳ですが、現在の経済状況を見ると改めてサイクル変更の重要性を感じます。

なぜならば、一昔前まではおそらく全国多くの地域で商工会議所や行政等から事業への助成ではなく、商工会議所青年部という団体に対して白紙助成が行われていたものと思えます。それは国家財政も今ほど逼迫していた訳でもなく、若手後継者活動助成金に代表される様々な予算組があつたからです。(本当のところはそうだったのか現在の借財を見る限り微妙ですが…)しかし、現在はそういった予算は大きく減らされております。そうすると少ない予算の中で必要とされるものに予算が割かれるのは当然で白紙助成のようなものは無くなつてきます。つまり今までのように12月前後に各Y E Gの会長が決定し、2月頃に事業計画が出来ているようでは、その時期にはもう予算はあ

りません。これからは、早い時期に次年度の体制を作り、遅くとも12月頃には事業計画書を持って商工会議所や行政と予算折衝をして、事業に対しての助成を求めなければ、各地のY E Gの活動は厳しくなると言えます。その為には、11月末頃に開催される全国会長研修会でリーダーとしての資質を高めると共に、同じ立場のもの同士が情報を共有して、Y E G運営の参考にしていかねければならないと思います。

それは、今まで以上に日本Y E Gに内容が求められる事でもあります。昨年度までの2月では参加頂いた会長等が研修した内容を今までは単会運営に取り入れるのが難しかった訳ですが、今年度からは11月になり全国会長研修会を真の意味でリーダー育成できる場を作る事ができなければ、サイクル変更した意味がありません。全国大会は年度の集大成として全国26000名の全員にとって有益な大会にしなければ変更した意味がありません。両事業を担当する企画委員会の担当副会長として一年間、サイクル変更と事業の充実に邁進する所存です。全国大会主管の愛媛県連・開催地松山Y E G、全国会長研修会の奈良Y E Gとは綿密な連携で意義のある事業にしていきたいです。

大きく変わると書いて『大変(たいへん)』と読む訳ですが、どうぞ一年間よろしくお願ひします。

今まで以上に襟を正し
商工会議所青年部の為に邁進いたします



日本商工会議所青年部(日本Y E G)
平成21年度 副会長
加瀬 久照
(津Y E G)

平成21年度日本商工会議所青年部連合会中地区(近畿・北陸信越・東海)及びビジネス推進委員会担当副会長として1年間皆様にお世話になります。東海ブロック・三重県連・津商工会議所青年部より出向させて頂いております。加瀬久照です。

どうぞ宜しくお願い致します。

私が副会長として指名されました時、何が出るのかと考えましたが、余り良い答えは出て来ませんでした。

「お断りする」事が頭を過りましたが諸先輩に断るという事を教わっていないため思わず「はい」と山内会長にご返答し現在が御座います。

しかし、やるからには全力で取り組み、それが指名して頂いた会長が私に望んでいる事ではないかと考え迷わず突き進む事に致しました。

常々考える事ですが、日本Y E G出向、県連義務(私がそうでした)色々あるとは思いますが、でも私は単会の為に成ると考え、延いては地域・道府県連・ブロックそして日本Y E Gと、連鎖で活性すればと思っております。

最後に、副会長という責任ある立場を頂き、今まで以上に襟を正し商工会議所青年部の為に邁進いたしますので皆様には引き続きご指導ご協力のほど宜しくお願いいたします。ましてご挨拶とさせて頂きます。



日本商工会議所青年部(日本Y E G)
平成21年度 副会長
甲斐 信孝
(大分Y E G)

皆様に感謝し、お礼を申し上げながら、
今年突っ走ってまいります。

平成21年度、日本Y E G副会長を拝命いたしました。九州ブロック、大分県連、大分Y E G甲斐でございます。

私の職務としては、まず、日本Y E G副会長として今年度山内会長の「想い」を、「形」にするためにしっかりとサポートすること。

また、日本Y E Gの西地区(中国、

四国、九州各ブロック)担当副会長として各ブロック代表理事の皆様と連携し、西地区内各ブロック間の情報交換や日本Y E Gとのパイプ役があると考えます。

そして、地域提言委員会の総括的な担当としての職務、日本商工会議所の特別委員会への日本Y E G山内会長の代理として出席し、担当します特別委員会での日商の活動をY E Gへ報告すること。

以上のような職務が、今年度私に与えられた副会長としての職務であろうかと、考えております。

今年度は山内会長のスローガン「One Team!」力強い日本の創造 原点回帰、そして新たな進化の下、未曾有の経済低迷の社会状況に臆することなく、全国各地の若き中小企業経済人たちと、日本Y E Gでなければできないこと、日本Y E Gだからこそできることを精一杯務めてまいります。

私自身も今年度はY E G活動の最終年度になります。平成8年に大分Y E Gに入会し、平成17年度の九州ブロック大会大分大会、翌18年度全国大会大分大会から始まった日本Y E Gとの繋がりの集大成の年度でもあります。

単会、大分県連、九州ブロックそして日本Y E Gでお世話になったすべてのY E Gメンバーの皆様へ感謝し、お礼を申し上げながら、今年突っ走ってまいります。

また、よろしくお願い申し上げます。



日本商工会議所青年部(日本Y E G)
平成21年度 専務理事
鈴木 大介
(小田原箱根Y E G)

平成21年度のスタートに際して

この度、平成21年度日本Y E G専務理事を仰せつかることとなりました。いよいよ4月1日より新年度がスタートがし、まさに身の引き締まる思いでございます。

さて、本年度で設立27年目を迎える日本Y E Gは、全国402の青年部を会員とし、そこに約26000名もの若手経営者が集う活気ある団体へと成長してまいりましたが、世の中は昨年後半から100年に一度と言われるような世界的不況に陥り、平成21年度の日本Y E Gはおそらく設立以来最も厳しい経済情勢の中での活動となることが予想される事態となりました。

しかしこんな今こそ、全国の活力あるY E Gがその持てる力を発揮し地域経済ひいては日本経済浮揚の原動力となるべき時です。また、見方を変えれば戦後の高度経済成長期に形作られた経済環境を、私たち

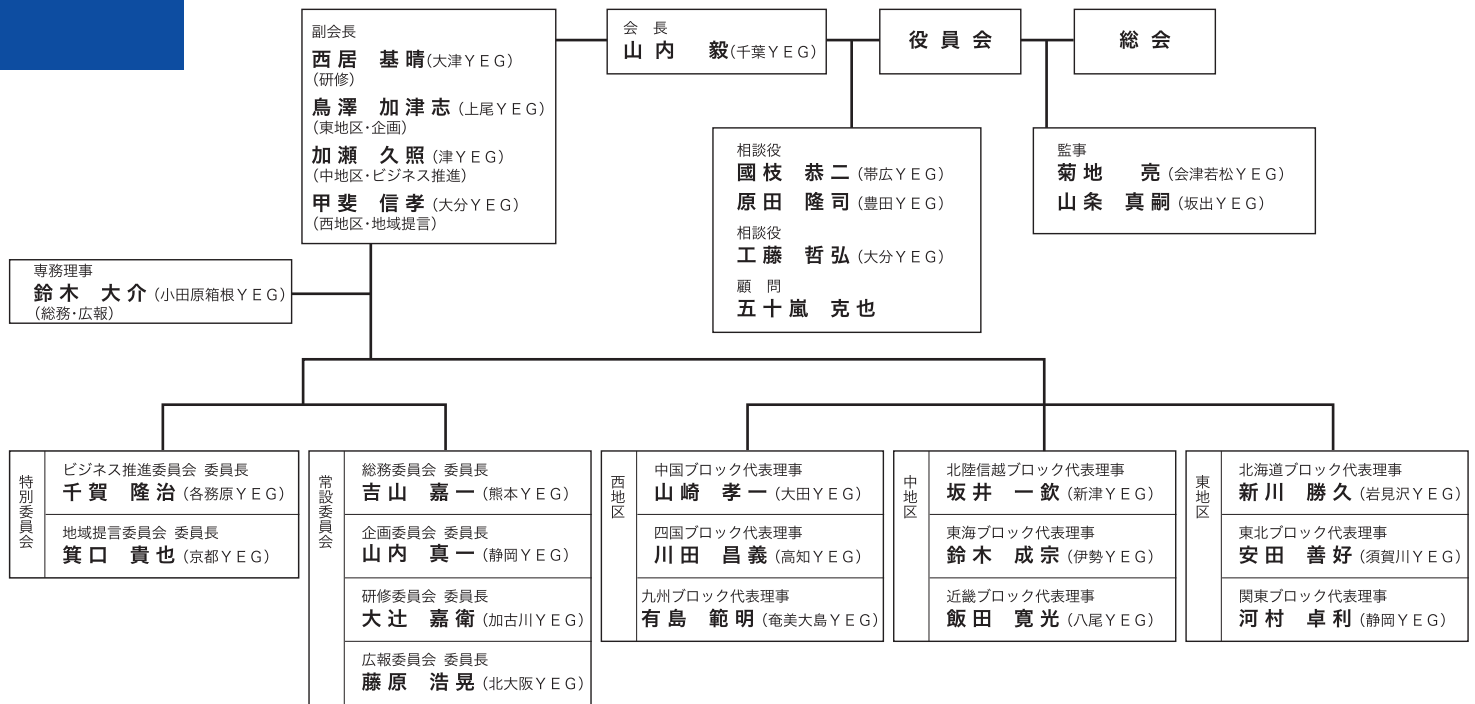
中小企業を中心とした新しい仕組みに作り変えるチャンスと言える時でもあります。今まさにY E Gが時代の先導役となり、その存在責任を果たさなければならぬ時が到来したのではないのでしょうか。

平成21年度日本Y E Gのスローガンは「One Team!」力強い日本の創造 原点回帰、そして新たな進化です。これは非常に厳しい経済情勢の今日、全国のY E Gがしっかりと結束し、自らの役割をもう一度見つめ直して活動することにより、一層大きな力を得ることを目指すという意志を示したものです。

私は、全国400を越える単会で形成される日本Y E Gの円滑な運営に務めることで、ほんの少しでも商工業の発展に寄与出来ればと思っております。

全国のY E Gメンバーの皆様とともに、熱き心で歩んでまいります。1年間よろしくお願い致します。

日本商工会議所青年部
平成21年度
出向者組織図



総務委員会

日本商工会議所青年部(日本Y E G)

平成21年度 総務委員会 委員長

吉山 壽一

(熊本Y E G)



九州ブロック熊本県連熊本Y E Gより出向し、21年度日本Y E G総務委員長を拝命しました吉山壽一と申します。大役を仰せつかり身の引き締まる思いであります。一年間よろしくお願いたします。

九州ブロックからは地理的条件からか出向者が例年少なく、「日本Y E G」というとても遠い存在になっています。斯く言う私も19年度に理事として、20年度に専門委員として出向し、両年度ともに一年限りの出向で終わるつもりでしたが、それぞれの地域から大変な思いで出て来ている委員会の仲間と共に汗を流し、涙を流し、事業を作り上げていく…その過程でできた絆をこのままで終わらせるわけにはいかない、ということを考えるようになり、21年度も引き続きお世話になることになりました。

総務委員長として心がけていることは「402単会2万6千人のY E G



メンバーにとってわかりやすい事業運営を行う」ということです。出向している者だけがわかる事業ではなく、出向しなくても「日本Y E Gはこういう組織だよ」と説明できるように、奇をてらわず、諸先輩方が培ってきた案件をグレードアップさせて足腰の強い連合会組織形成に尽力できればと考えております。九州を例にとると、九州ブロックは島国であり、福岡という拠点大都市を中心に圏域内で何事も完結してしまい、中々外に目が向かないという事情もありますが、少しでも日本Y E Gを身近に感じてもらい、それぞれの単会、自事業所の活性化に役立てていただきたいと思います。

事業運営については21年度の総務委員会メンバーには全国大会経験者、現役総務委員他総務委員会経験者、出向のメンバーにも周年事業を控えている者、自ら総務へ志願してきた者などたくさんの方が揃っておりますので、必ず全国のメンバーに有意義なメッセージが発信できるものと確信しております。また27年目を迎える21年度はサイクル変更一年目という節目の年であり、スムーズに新サイクルに移行させるためにも大会主管理地の皆様、事務局の皆様はもとより他の5つの委員会とは綿密な打ち合わせが必要になると思いますが、ご協力のほどお願いいたします。

最後になりましたが、歴史と伝統ある総務委員会の名を汚さぬように、事業運営に当たっていく所存でありますので、何卒よろしく願いたします！

企画委員会

日本商工会議所青年部(日本Y E G)

平成21年度 企画委員会 委員長

山内 真一

(静岡Y E G)



こんにちは。

関東ブロック 静岡県連 静岡Y E Gから出向させていただいております。山内真一です。昭和41年生、旅行・宴会・読書が趣味であり、妻、娘2人で立場の弱いお父さんという出向に最適な家庭環境です。

長女が生まれ「家族が暮らしていく私たちの町」という意識がめばえ、市のまちづくり活動に参加しはじめた時のこと。「商工会議所青年部って知ってる？入らない？」と信頼する先輩から、お誘いをいただいたのがY E G入会のきっかけでした。

多くの方と出会い、Y E Gで学ぶほどに事業所の経営も上向いていきました。

人との出会い、Y E Gとの出会いが、私自身を変えてくれたように思います。このようにY E Gの仲間感謝している私は、各地のブロック大会、全国大会、全国会長研修会を開催する各地



Y E Gの皆様との窓口となり、全国Y E Gメンバーの研鑽と交流の場を盛り上げよう！とする日本Y E G企画委員会で活動させていただきます。ことにたいへん感謝しております。

企画委員会は、各種大会を開催する地域から素晴らしいY E Gメンバーに出向していただき、委員会が構成されています。(大会開催地域と日本Y E Gが、手を結びあう存在であることがこんなところにも表れています)大会間・地域間のより一層の交流を促進するための企画立案と実行のために、開催地と情報交換しながら「One Team!」として活動を開始していきます。

開催地域の皆様、全国の皆様からあげていただけるような活動をしてまいりますので、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研修委員会

日本商工会議所青年部(日本Y E G)

平成21年度 研修委員会 委員長

大辻 嘉衛

(加古川Y E G)

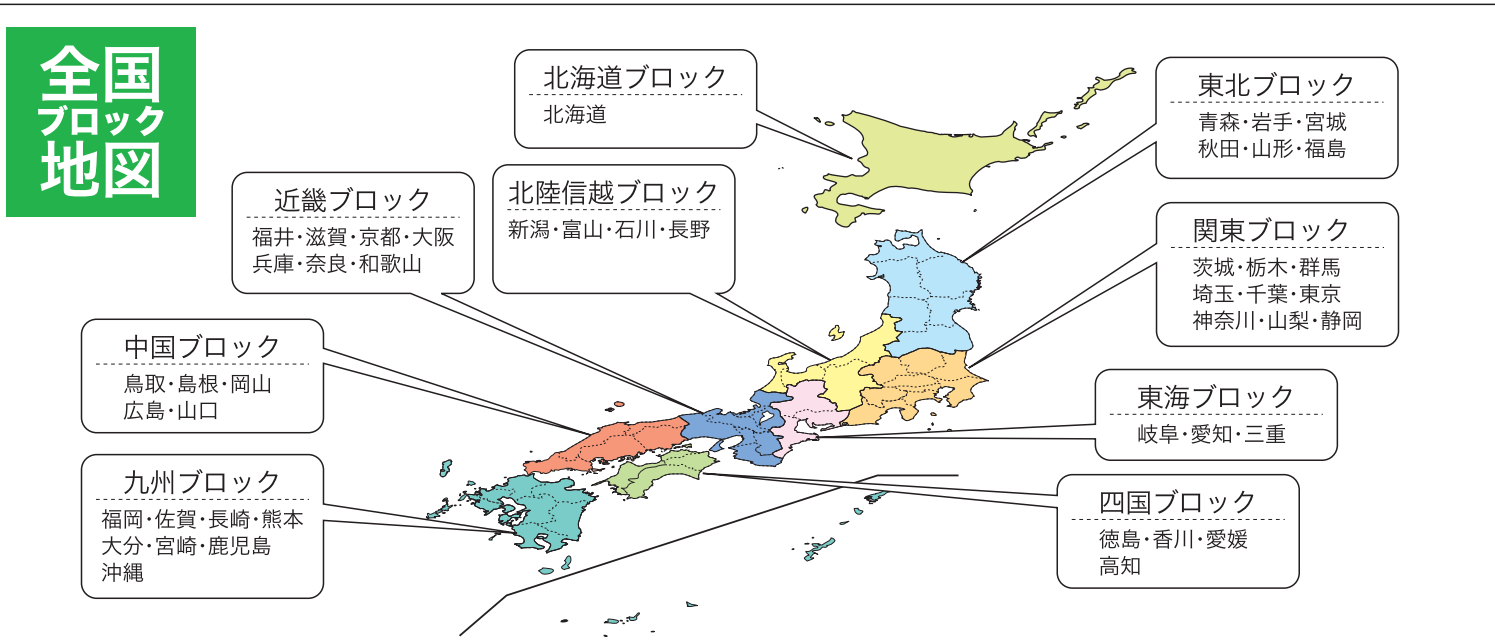


全国の日本Y E Gの皆様はじめまして。平成21年度研修委員長を拝命しました近畿ブロック兵庫県連は加古川Y E Gより出向させて頂いていただきます。平成18・19年と出向させて頂いた大辻嘉衛(おおつじよしひら)と申します。平成18・19年と出向させて頂いた大辻嘉衛(おおつじよしひら)と申します。平成18・19年と出向させて頂いた大辻嘉衛(おおつじよしひら)と申します。

塗らないように努めてまいります。さて、挨拶はこの辺りにしまして、平成21年度の事業についてご紹介したいと思います。我が研修委員会は全国から23名の熱あるメンバーで構成されており、出向経験豊富な方から初出向の方など非常に個性のある方々ばかりであります。このメンバーで展開する活動には大きく二本の事業がございます。まず一つは平成21年11月に開催されます全国会長研修会奈良会議で『翔生塾 in 奈良』と銘打って、今まで単独で開催していた事業を奈良のY E Gと一緒に『研修会全体が翔生塾』という新しい試みで作っていく翔生塾の運営であります。この事業につきましては『企業後継者育成研修』を目的に立ち上げられた研修会です。本年度は平成20年度研修委員会で実施した「ランチエスター

経営」という『実学』的な要素で展開されたことを受け、「リーダーとしての心のあり方」として人間として経営者としての歩むべき道や品性の高い生き方を学ぶ『人間学』という概念をテーマとする研修を実施してまいります。また、地域のリーダーとしてどうあるべきかということについても、会長を含めた有識者との対談などの場を設けリーダーとしての姿勢について思いっきり話をさせて頂きたいと考えております。もう一つの事業はビジネス推進委員会との初連携事業としてビジネスプランコンテスト(通称・B P C)の開催です。皆さんもご存じのとおり全国会員すべてが参加でき、第二創業・事業のブラッシュアップという目的で、事業計画から発表までをコンテスト方式で参加者の支援・応援をさせて頂いたたく事業であります。毎年内容の濃い事業で進められており参加者の中にも、その後順調に新ビジネスを軌道にのせられているということも声も上がってきています。ぜひ、我こそはと申される多くの方々の参加をお待ちしております。

この大きな二本の事業で研修委員会は全国のY E Gメンバーが地域で活動するためのヒントを発見できる場を23名の委員会メンバーと共働しながら会長会議主管地奈良や日本Y E G各委員会と一緒に運営してまいりますので、是非、研修委員会への温かいご支援と叱咤激励のほどをよろしくお願い申し上げます。



広報委員会

日本商工会議所青年部(日本Y E G)

平成21年度 広報委員会 委員長

藤原 浩晃

(北大阪Y E G)



言葉には力があります。私達は、言葉というツールを使い、コミュニケーションを取り合います。広報委員会は、この言葉を有効に活用し、全国2万6千名のY E Gの仲間達に、日本Y E Gという集まりの素晴らしさを伝えていきます。21年度日本Y E Gは、千葉県連千葉Y E Gの山内毅会長が舵をとり、スローガンは「One Team!」力強い日本の創造 原点回帰、そして新たな進化であり、全てのメンバーのパワーを一つにして一丸となつて、連合会としてのメリットを最大限に活かしながら、年間事業を進めてまいります。その中であつて、広報委員会に与えられている使命は大きく分けて

二つあります。一つは、年間サイクルの変更に伴うインフォメーションであります。もう一つは、「Y E G」自体のブランド力を高める事。すなわち、外部への発信強化であります。日本各地のY E Gメンバーには、とてつもないパワーを秘めている方々がおられます。その方々に参加して頂き、全国9ブロック各地で、Y E Gブランドを外部に向けて強力にアピールしていくと共に、広報委員会メンバーが一丸となり、皆様の情報を大いに活用させて頂きます。日本Y E Gを大きく拡げる広報活動を目指していきます。チャレンジスピリットで、地域を、日本を変えていきます。



ビジネス推進委員会

日本商工会議所青年部(日本Y E G)

平成21年度 ビジネス推進委員会 委員長

千賀 隆治

(各務原Y E G)



平成21年度ビジネス推進委員会の委員長を仰せつかっております、東海ブロック岐阜県連各務原Y E Gより出向させていただきます。千賀でございます。若輩者ゆえ、関係各位にはご迷惑をおかけする事も多々あるかと存じますが、会長始め役員の皆様や、委員会メンバーの皆様と共に力を合わせ、精一杯努めさせて頂く所存でございます。どうか皆様の格別なご支援、ご厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

さて、我々ビジネス推進委員会は、会長所信にございます「全国402単会がその地域においてより有意義な活動が出来るように「Y E G会員企業の発展の支援」を促進する」というコンセプトのもと、「ビジネスサイト」「ビジネス交流」「ビジネスプランコンテスト」という三つのセクションをもつて展開してまいります。全国規模の連合会としての特性を最大限生かすべく、「緑満開ビジネスサイト」や全国各地で繰り広げられている「ビジネス交流会」を紹介・活用し、全国各地から集まる最新の地域・ビジネスの情報集約と発信を展開。そして「ビジネスプランコンテスト」を研修委員会さんと共同で企画・運営し、Y E Gメンバーの熱き心を全国各地のメンバーへと発信して参ります。2万6千にも及ぶ巨大マーケットを有する組織としての、その組織力の認識・活用を促進していくことが、「Y E G」会員企業の発展への支援」につながると信じ、継承すべきものは継承し、我々がやらなければならないことをしっかりと受け止め、使命感を持つて取り組んでいきたい、そう思っております。大変厳しい状況が予想される今後の日本経済において、我々中小零細企業は、いかに力強く生きていくかを真剣に模索・努力していかなければ、将来のビジョンなど見ることすら適いません。我々は、我々の組織というものの意義をしっかりと理解し、見つめ直し、活用し、そして更なるポジティブな可能性を見出さなければならぬのだと思っております。会長と共に、そのスローガンに掲げられた意味をしっかりと受け止め、「One Team!」すべてのY E Gが一丸となつて新たな歩みを進めて行くようではありませんか！ 将来この国を背負っていく子供たちの、その輝ける未来と愛おしい笑顔に出合うためにも。



地域提言委員会

日本商工会議所青年部(日本Y E G)
平成21年度 地域提言委員会 委員長
箕口 貴也
(京都Y E G)



平成21年度、日本商工会議所青年部
地域提言委員会委員長を務めさせて
いただきます、近畿ブロック・京都府連・
京都Y E Gの箕口貴也でございます。
現在のこの世界恐慌の中、日本経済
の安定を目指し、必要な施策を迅速に
推進していくには、我々メンバーが一
線に立ち、日本経済の再起をめざし、
地域経済の活性化に向け行動して行

かなければなりません。その為に当委
員会では、二つのテーマを掲げ、活動
してまいります。

まず一つ目は、提言活動であります。
日本Y E Gは、北は北海道から南は沖
縄に至るまで9つのブロック・道府県
連・各Y E Gに分けられています。各地
域より集まる意見や要望を集約・調整・
共有し、日本商工会議所と意見調整し
た上で、日本Y E Gとしての政策提言・
意志具申を行ってまいります。

そして二つ目は、議関係者及び行
政関係者との交流を図る通称「風会議」
の企画・運営であります。各地域が抱え
る問題、また国が抱えている問題を提
示し、お互いの率直な意見交換や議論
を通して、それらの問題をどう解決し
ていくか、具体的な行動を起こすに生
じる問題は何かを、日本・ブロック・道
府県・単会のそれぞれのレベルでそれ
をもとに、より具体的な行動を展開す
る為の会議のあり方を検討し、日本Y
E Gに対して提案してまいります。
以上を今年度の地域提言委員会の
活動と致します。

平成21年度のスローガンでもある『O
ne Team!』力強い日本の創造
原点回帰、そして新たな進化」を、ま
さに実践する、今、原点に立ち共に行
動し、共に輝ける新しい日本の未来創
造へ向け、一丸となって邁進していこ
うと思えます。

何分私自身、初めての委員長であり、
どこまで皆様の期待に応えられるか解
りませんが、精一杯務めてまいります。
何卒宜しくお願い申し上げます。

from EDITORS



編集後記

✍️ 翔生51号編集にあたり、全国から参加して頂いた広報委員会メンバーと送り出して頂いた単会の皆様に心から感謝致します。今年は、ホームページ等を通じて様々な情報を提供させていただきます。日本Y E Gを身近に感じて下さい。

(広報委員長: 藤原浩晃)

✍️ 翔生ではY E Gメンバーに向けた情報発信を行いますので、Y E Gの細かな情報をタイムリーに掲載出来る様に頑張ります。

(広報副委員長: 新井政秀)

✍️ 多様なY E G、多才なメンバー、目指す明るい未来は一つだけ。Y E Gブランド浸透のため頑張ります。

(広報委員会 理事: 田中修)

✍️ 宮崎県西都Y E Gより初めて理事に出向します神部です。広報委員としてがんばりますので、各単会の情報を仕入れさせていただきます。

(広報委員会 理事: 神部吉昭)

✍️ Y E GについてY E G内外の皆さんにもっと知って頂けるよう頑張りますので、どうぞよろしく願い致します。何か情報あったら教えて下さい。

(広報委員: 井野口豊)

平成21年度日本商工会議所青年部(日本Y E G)出向者名簿

役 職	氏 名	単 会	役 職	氏 名	単 会	役 職	氏 名	単 会
会長	山内 毅	千葉	理事(ビジネス推進)	松林 信吾	半田	専門委員(研修)	田部井 優介	松山
直前会長	工藤 哲弘	大分	理事(ビジネス推進)	藤川 英典	加古川	専門委員(広報)	五十嵐 亮	富山
副会長(筆頭)	西居 基晴	大津	理事(ビジネス推進)	岡 生子	萩	専門委員(広報)	吉田 修	館林
副会長(企画)	鳥澤 加津志	上尾	理事(ビジネス推進)	黒田 裕二	鳴門	専門委員(広報)	新井 政秀	さいたま
副会長(ビジネス推進)	加瀬 久照	津	理事(地域提言)	杉山 建一	土浦	専門委員(広報)	小林 弘明	東金
副会長(地域提言)	甲斐 信孝	大分	理事(地域提言)	坂本 賀一	東金	専門委員(広報)	井野口 豊	佐倉
専務理事	鈴木 大介	小田原箱根	理事(地域提言)	中村 岳晴	鳥羽	専門委員(広報)	川崎 亮一	相模原
北海道ブロック代表理事	新川 勝久	岩見沢	理事(地域提言)	宇野 洋一郎	和泉	専門委員(広報)	水野 久美子	浜松
東北ブロック代表理事	安田 喜好	須賀川	理事(地域提言)	中田 祐史	田辺	専門委員(広報)	延原 正浩	岡山
関東ブロック代表理事	河村 卓利	静岡	理事(地域提言)	武村 俊樹	倉吉	専門委員(広報)	梶原 康彦	岡山
北陸信越ブロック代表理事	坂井 一欽	新津	理事(地域提言)	熊本 裕子	広島	専門委員(広報)	宮内 俊治	四国中央
東海ブロック代表理事	鈴木 成宗	伊勢	理事(地域提言)	細名 久	大村	専門委員(ビジネス推進)	成田 孔一	帯広
近畿ブロック代表理事	飯田 寛光	八尾	理事(地域提言)	浦川 裕一	荒尾	専門委員(ビジネス推進)	山田 政彦	仙台
中国ブロック代表理事	山崎 孝一	大田				専門委員(ビジネス推進)	富永 哲臣	新発田
四国ブロック代表理事	川田 昌義	高知	監事	菊地 亮	会津若松	専門委員(ビジネス推進)	田邊 真澄	加賀
九州ブロック代表理事	有島 範明	奄美大島	監事	山条 真嗣	坂出	専門委員(ビジネス推進)	深澤 圭司	さいたま
総務委員長	吉山 壽一	熊本				専門委員(ビジネス推進)	小林 健一	柏
企画委員長	山内 真一	静岡	相談役	國枝 恭二	帯広	専門委員(ビジネス推進)	船坂 明宏	高山
研修委員長	大辻 嘉衛	加古川	相談役	原田 隆司	豊田	専門委員(ビジネス推進)	都竹 太志	高山
広報委員長	藤原 浩晃	北大阪				専門委員(ビジネス推進)	平松 賢介	豊橋
ビジネス推進委員長	千賀 隆治	各務原	専門委員(総務)	加藤 富士雄	米沢	専門委員(ビジネス推進)	近坂 祐吾	津
地域提言委員長	箕口 貴也	京都	専門委員(総務)	山田 小百合	亀田	専門委員(ビジネス推進)	前島 洋司	松坂
理事(総務)	齋藤 豊	久慈	専門委員(総務)	久野 慎一郎	古河	専門委員(ビジネス推進)	高橋 直浩	松坂
理事(総務)	能登 久	黒部	専門委員(総務)	福富 正浩	栃木	専門委員(ビジネス推進)	中西 信人	倉敷
理事(総務)	貫井 賢治	蕨	専門委員(総務)	小川 智之	千葉	専門委員(ビジネス推進)	三村 康	総社
理事(総務)	沖 秀和	宇和島	専門委員(総務)	中澤 裕司	千葉	専門委員(ビジネス推進)	三根生 啓太	大洲
理事(総務)	朝長 勇	武雄	専門委員(総務)	西村 寿洋	浜松	専門委員(ビジネス推進)	下元 浩晴	高知
理事(総務)	知念 直樹	沖縄	専門委員(総務)	神谷 丈一	豊田	専門委員(地域提言)	松木 志津香	函館
理事(企画)	杉本 信一	遠軽	専門委員(総務)	平井 湖	大津	専門委員(地域提言)	前田 一	弘前
理事(企画)	石郷岡 誠	秋田	専門委員(総務)	井谷 智子	吹田	専門委員(地域提言)	延松 義幸	郡山
理事(企画)	阿部 賀寿男	仙台	専門委員(総務)	上原 昌憲	那覇	専門委員(地域提言)	川邊 英樹	富山
理事(企画)	塩浦 敬之	沼田	専門委員(企画)	尾崎 仁	米沢	専門委員(地域提言)	川上 俊紀	千葉
理事(企画)	守野 洋史	草津	専門委員(企画)	澤野 公一	富山	専門委員(地域提言)	風澤 斉	柏
理事(企画)	藤井 宏和	榎原	専門委員(企画)	吉岡 努	太田	専門委員(地域提言)	山田 慎二	春日井
理事(企画)	森山 康仙	大田	専門委員(企画)	望月 啓行	静岡	専門委員(地域提言)	西本 一幸	小牧
理事(企画)	鎌田 浩二	高松	専門委員(企画)	芳賀 康宜	半田	専門委員(地域提言)	西井 一浩	伊勢
理事(研修)	穴戸 健一	郡山	専門委員(企画)	田中 利彦	桑名	専門委員(地域提言)	山田 英樹	大津
理事(研修)	岩田 孝義	村上	専門委員(企画)	上田 祐輔	奈良	専門委員(地域提言)	木村 和央	草津
理事(研修)	通次 康	小松	専門委員(企画)	加藤 秀章	松山	専門委員(地域提言)	木崎 信也	北大阪
理事(研修)	池田 竜夫	長野	専門委員(企画)	天本 哲	鳥栖	専門委員(地域提言)	廣田 勝吉	奈良
理事(研修)	渡辺 丈洋	亀岡	専門委員(研修)	松坂 信	仙台	専門委員(地域提言)	木原 宏寿	広島
理事(研修)	富宿 琢也	いちき串木野	専門委員(研修)	中村 浩	米沢	専門委員(地域提言)	兵頭 弘章	松山
理事(広報)	大江 匠	天童	専門委員(研修)	安井 恵一	茂原	専門委員(地域提言)	國澤 和人	高知
理事(広報)	青木 聡明	小山	専門委員(研修)	大徳 静夫	成田			
理事(広報)	河野 渡	敦賀	専門委員(研修)	武田 悦生	成田			
理事(広報)	田中 修	玉野	専門委員(研修)	小泉 榮助	成田			
理事(広報)	有座 宏文	豊前	専門委員(研修)	村上 隆	小田原箱根			
理事(広報)	野崎 良	豊後高田	専門委員(研修)	鈴木 雅太郎	浜松			
理事(広報)	神部 吉昭	西都	専門委員(研修)	村山 智美	豊川			
理事(ビジネス推進)	中山 佳子	五所川原	専門委員(研修)	加藤 弘幸	京都			
理事(ビジネス推進)	高橋 十大	茅ヶ崎	専門委員(研修)	恩地 宏昌	北大阪			
理事(ビジネス推進)	米山 和良	沼津	専門委員(研修)	村田 守	奈良			
理事(ビジネス推進)	横山 浩之	各務原	専門委員(研修)	西尾 公利	高松			